

# 古典文法トレーニング 長文課題 品詞分解と現代語訳

大問十三（出典：『平治物語』）

◎品詞分解（名詞は基本的に非表示。非活用語は基本的に初出のみ。同色の助詞は同内容を示す。）

誰そ彼時係助カ上・用完了・已接助(順應)も過ぎぬればカ四・用ハ四・体、行き交ふ人も跡絶えてヤ下二・用完了、所々に見えし家も、柩を閉ぢて心細し。里格助(体修)の煙も絶えぬればヤ下二・用完了・已、宿借らばやのあらましたにも今はなし。夜も更けゆけばカ下二・用カ四・已接助(偶然)、風荒く雪降りて、子ども我格助(体修)が身も、明日を待つべき命もおぼえず。あはれ、人品をも見知らざらん山里人の、草の庵もがな。今宵ばかり身を隠して、子どもを助けむカ下二・未意志・終。と思ひゐたり。幼き子ども泣き弱りて、声も時々は絶え、息も絶え入るやうに聞こゆればヤ下二・用ヤ下二・体、「かくても助からばこそあらめ、とても永らふまじき身なれば、人里に宿を借りてこそ、もしやの頼みもあらむずれ」と思ひなして、焚く火の影の見えるを頼みて怖づ怖づ近付きて、竹の編戸をうち叩く。主人とおぼしくて、大人しき女、戸を開けてぞ出でたりける。

◎現代語訳（↓『ステップアップノート30 古典文法トレーニング』参照）